社会福祉法人武蔵野
MUSASHINO

ふれっそ

【ひろがれ、かさなれ、むさしののわ】

2024
第63号

特集

第六期中期基本計画

新たな時代・社会のニーズに対応できる事業展開と持続可能な経営を目指す

●トピックス
成蹊学園の「けやき循環プロジェクト」に参加しました

●たて糸よこ糸
「メガロス吉祥寺」長谷川 亮さん

●えすぷれっそ
あたたかい、つながり　三浦 希美代
より深く立体的に……　大塚 丈彦

●笑門来福
新たな仲間と新たな計画を

UD FONT ユニバーサルデザイン（UD）の考え方に基づき、より多くの人に見やすく読みまちがえしにくいデザインの文字を採用しています。

特集

新たな時代・社会のニーズに対応できる事業展開と持続可能な経営を目指す

これは、第六期中期基本計画（2024年度～2026年度）の基本となる方向性です。その時々で求められる事業だけでなく、将来を見据えて事業を展開していくために、当法人は3年ごとに中期基本計画を作成しています。今回の特集では、この第六期中期基本計画についてご紹介します。

第六期中期基本計画の3つのポイント

これまで私たちはご利用者やご家族が、武蔵野市でつながり豊かに自分らしい生活が送れるよう、関係している人々と協力して支援にあたってきました。

しかし、新型コロナウイルスや地震などの自然災害、少子高齢化の問題など、大きな変化が起こっています。

今後、新たな課題にも対応していくためにはどうしたらよいのか。現状を踏まえて私たちができることを検討した結果として、3つのポイントを柱に取り組んでいきます。

01 部門や領域を超えた連携強化

私たちは障害のある方、子どもから高齢の方まで、あらゆる世代、多くの方々へサービスを提供しています。各事業所のもつ資源や役割、職員がもっている知識や技術、実践や経験を積み重ねてきました。協力体制や連携を強化することによってこれらを最大限生かし、部門や領域を超えた支援にあたります。

02 人材育成の強化

現役世代の人口減少により、社会全体で働き手が不足している中、特に福祉医療業界は深刻な人手不足となっています。新たな人材の確保にも努めながら、今働いている職員が自身のスキルや能力を向上させ、やりがいをもって継続した仕事ができるよう環境を整え、働き方改革を進め、人材育成に取り組みます。

03 物理的環境とマンパワーの有効活用

「これからはサステナブルな生活を目指す時代」とよく言われるようになりました。私たちも今あるものを有効活用することで、必要なサービスを今後も継続して提供していくとともに新たなニーズにも対応していきます。

中期基本計画を実現していくためには時間とパワーが必要です。今ある業務を精査し効率化をはかることで、推進力を生み出していきます。

また、〝事業収入を増やし、安定した経営〟に努め、財務の健全化を図ることで更に地域に役立つ法人運営に取り組んでいきます。

領域別の計画

最期まで安心して過ごせる支援

高齢・居住

- 心身機能の低下に伴う不安に寄り添う支援
- フレイル予防
- 本人らしく過ごせる看取り期支援
- 快適な住環境整備
- 地域住民や児童、学生との交流の再開

地域に選ばれるサービスの提供

高齢・通所

- 臨時利用、個別対応、送迎時間等の個々の要望に合った柔軟なサービスの提供
- 認知症支援の質の向上
- 要望を尊重した柔軟なプログラムの提供と新たな趣味活動の実施
- 地域や社会活動とのつながりの強化
- 施設内での連携・協力の強化

児童発達支援センターの機能強化

児童

- 子育て支援サービスとの連携
- 地域の発達支援理解向上に向けた取り組み
- 発達支援における地域課題の整理と発信
- 児童領域の支援力向上と職員育成

一体的な地域のネットワークづくり

高齢・相談

- 早期の対応や課題解決を実現する切れ目のないサポート体制づくり
- 各種講座の開催を通じたネットワークづくり
- 多様化、複雑化する相談への対応力強化

職員一人ひとりの自覚と行動

計画を実現していくためには、職員一人ひとりがしっかり計画を理解し、意識して日常の支援や業務に取り組むことが大切です。〝誰かが作った計画〟ではなく〝自分たちが作った計画〟、すなわち「自分事」として捉えられることを目指しました。

まず、各事業所のリーダー職員に説明会を実施し、意見交換や質疑応答を行いました。その後、リーダー職員が各事業所の全職員に説明し、職員から意見を募りました。提出された意見は総数374件！　この貴重な意見は策定チームで集約し、「全体計画」に反映させ、内容に応じて各領域や委員会に届け、その後の計画策定に生かしました。その意見は「ニュースレター」という形で職員にフィードバックしました。職員一人ひとりの自覚と行動が私たちの大切な財産です。

領域別の計画

地域のニーズに対応できる仕組みづくり

障害・居住

- 地域生活支援拠点等事業の推進
- チャレンジ自立生活体験事業（自立生活に向けた宿泊体験で生活スキル獲得を目指す場）の充足
- ショートステイの受け入れ強化
- サテライト型等、さまざまな形の暮らしの場の検討
- ライフステージに合わせた生活の場やサービスの検討

個々のニーズに合った生活介護プログラムの提供

障害・通所

- 高齢化、重度化に対応したプログラムの研究と実施
- ご利用者の意欲や成長、作業スキルに応じた相互利用の推進
- 計画的な研修による専門性の向上
- 「つむぐと」（法人内生活介護事業所等の共同ブランド）作品の品質向上と「つむぐと」を通じた社会参加の推進

相談支援体制の充実

障害・相談

- 研修や事例検討による相談支援力の向上
- 相談支援に関わる事業所との連携強化
- ご利用者、ご家族の高齢化への対応力向上
- 関係機関への相談支援事業の周知と利用促進のための工夫

多様な就労ニーズへの対応

障害・就労

- 働く力を高めるための学習プログラムの提供
- ステップアップに向けてチャレンジできる環境の整備
- 定期的なアセスメントとサービス移行検討会議の実施
- 企業就労している方の高齢化に対応した受け入れ体制の整備
- 社会変化に対応した発展性、持続性のある新たな作業種の研究と開発

まとめ

私たちはこれからの3年間、この第六期中期基本計画を日常の業務や支援の中で具現化していくことになります。しかし、その過程で判断に迷うことや困難な課題にぶつかること、自分たちの力量ではすぐに解決できないことがたくさんあると思います。その時にこそ計画に立ち戻り、目標を見失わず、目の前にいるご利用者やご家族、地域の方々と真摯に向き合いながら、自分たちのすべきことをしっかり見極めて前進できる、そんな職員、法人でありたいと思っています。

opics ●トピックス

成蹊学園の「けやき循環プロジェクト」に参加しました

学校法人成蹊学園（以下学園）のサステナビリティ教育研究センターを母体に進めているプロジェクトのひとつに「けやき循環プロジェクト」があります。学園のけやき並木の落葉を集め、たい肥を作り、学園内の園芸活動に生かすことで資源が循環する仕組みを作ろうと始まったプロジェクトです。昨年の11月19日に山びこも出店した販売イベントで、学園の方とご一緒し、趣旨に賛同したことから、ご利用者が参加できないか相談したところ、その場でご快諾いただきました。

落ち葉集めは、全4回、学園の小・中・高・大学生、教職員の皆さんの他、地域連携としてスターバックスの吉祥寺周辺店舗のスタッフ、けやきコミュニティセンターなども参加、関係者だけでなく広く地域の方々とともに進められ、山びこからはご利用者13名が参加しました。

学生の方との共同作業

当日は、けやき並木に参加者が一斉に集まり作業が始まりました。そして終了後は小学校の校舎の前に参加者全員が集まり、「ありがとうございました！」の声かけで終わります。山びこは3日間参加しました。そしてこの活動には素敵な「お楽しみ」がついていました。集めた落ち葉を焼き床にして、学内で作る「焼き芋」です。担当の方のご厚意で山びこもお誘いをいただき、学内で朝からじっくり蒸した焼き芋をいただけることになりました。ご利用者に温かいうちに食べてほしい、落ち葉拾いとセットで思い出にしてほしいと考え、当日は参加したご利用者全員で学園にうかがい、本館前のベンチで焼き芋をゆっくり味わいました。

学園の皆さまとの出会いやいただいたご厚意、地域を舞台に新しい活動ができたこと、活動を通じて地域に貢献できたこと、焼き芋とともによい思い出になったことなど、今回得られたことがたくさんありました。しかし私がそれら以上に印象に残ったのは、学園スタッフと地域の方々との一致団結した活動に、山びこのご利用者も一緒に参加し、同じ目的に向かって取り組んでいる光景でした。

学園の中で舌つづみ

今後も地域の皆さまとともにできる活動を通じて、ご利用者の体験を広げ、交流の輪を重ねることで、誰もが暮らしやすい地域づくりに貢献していきたいと思います。

（デイセンター山びこ　武田　光正）

→地図 P.8-A

たて糸よこ糸

よりよい地域づくりをめざして活動している団体等を紹介します。

「メガロス吉祥寺」長谷川亮さん

「メガロス吉祥寺」（以下、メガロス）は、吉祥寺駅からほど近い五日市街道沿いにあるフィットネスクラブです。チーフマネジャーの長谷川（はせがわ）亮（りょう）さんは、介護予防運動指導員として、社会福祉法人武蔵野が運営する「ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター」（以下、ゆとりえ）と武蔵野市共催の「いきいき健康　地域プロジェクト」で、フレイル予防講座を担当しています。

体の動かし方のコツなど、参加者はインストラクターのアドバイスに真剣に耳を傾けています

「たとえ週１回でも、運動を続けている方の体力には目を見張るものがあります。加齢で筋肉は衰えますが、負荷をかけた運動を続ければ、その進行を緩やかにできます。まさに“継続は力なり”です」と長谷川さん

ゆとりえとつながったきっかけは、長谷川さんが市役所にかけた1本の電話でした。

「飛び込み営業のようなかたちでしたが、『地域の高齢者の健康維持のために何かできることはないでしょうか』と尋ねたんです」。

健康意識の高い会員の方々でもコロナ禍の影響で、外出や運動の機会がぐっと減りました。一度断ち切られた習慣を元通りにするには時間がかかります。特に、高齢者はその傾向が顕著だったそうです。

「感染リスクを恐れて、家にひきこもりがちになる方もいました。外出控えによる健康の二次被害のほうが、私にはとても気がかりだったんです。実際、シニア層だけでなく、体力の衰え、運動能力の低下は全年齢層に見られます。特に高齢者は、室内での転倒や怪我のリスクも高まり、結果的に医療費が増えるという悪循環になりかねません」。

こうした危機感がゆとりえと連携する契機となりました。「フレイル予防講座」には、ゆとりえと関わりのある方はもちろんのこと、それ以外の地域の方々も参加しています。参加者は主に70～80代ですが、中には90代の方も。

「若い人なら自宅でスマホを見ながら、1人で筋トレもできます。でも、シニアの方々の多くは、スマホやネット環境を整えることから始めないといけません。オンラインは便利ですが、すべての年代に向けたものではないでしょう。こうした〝オフライン（対面）〟の講座こそ、高齢の方には必要です」。

実際、講座終了後に、講師に細かな質問をしたり、楽しそうに雑談する方々もいます。

「体の動きや会話から、その方が必要としているアドバイスができます。ちょっとした挙動は、オンラインでは気づけないことも多いです」と長谷川さん。

医療費を減らして、地域の方々の健康寿命を少しでも長くすること、そのために有益な情報やメガロスの施設を提供して、行政と継続的な連携をしていくことが、長谷川さんの今後の展望です。

メガロスには、三世代で通い続ける会員もいらっしゃるそうです。運動や健康維持の意識が、世代間や地域間で継承され続けるような、そんなサービスの提供をこれからも期待しています。

（聞き手　ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター　菊池　政之）

えすぷれっそ

ちょっとひといき♪ 心がほっと温まるスタッフの日常をお届け♪

あたたかい、つながり

放課後等デイサービスパレット
三浦　希美代

→地図 P.8-B

春の日差しが暖かく感じられる季節になりました。放課後等デイサービスパレットは、開設してから4年目に入ります。開設当初は、学校生活に慣れず、子ども達も学校への送迎バス乗車時間の長さで、不安と疲れがあるのでは、と感じていました。安心安全に過ごせるように、表情をよく見て、子ども達の言葉に丁寧に耳を傾けることで子ども達の心の機微に気づけるよう心がけました。またチームでは毎日の支援内容を皆で振り返り、個々に合わせた支援につながるように取り組んできました。今では、子ども達も大きくなり、スタッフと肩を並べるくらいに背も伸びています。

いざ、チャレンジ！

最近、とても嬉しい場面がありました。1階のケアハウスのスタッフからいただいた、可愛いチップスターの空箱に、ビー玉等を入れたおもちゃを一人の児童とスタッフが一緒に作りました。そのおもちゃを、ある児童は振って音を鳴らし楽器として楽しみ、また、ある児童は、積み木のように積んで楽しんでいます。ケアハウスのスタッフの方達からも、温かく見守られ、友達の作った物が、お友達の遊びにつながる、子ども達の日々の成長を感じています。

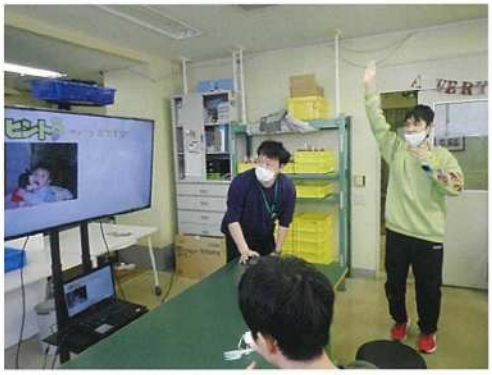
より深く立体的に……

ワークセンター大地
大塚　丈彦

→地図 P.8-C

大地では、月一度程度「お楽しみ会」が開催されます。2023年12月にご家庭から幼少期の写真を募集し、「この子はだれだ?」とクイズ形式で楽しむ企画をしました。

普段日中活動支援をしている私達は、学齢期後半から成人期のご様子しか知りません。面談時等に生まれたときや小さい頃の状況を伺い、これまでのご本人やご家族が歩んできた歴史をイメージし、日常の関わりを通して今の状況を把握しながら支援をしています。今回、過去の写真を共有させていただくことで、より具体的な皆さんのご様子を〝姿として〟歴史的な立体感をもつものとして深めることができました。また、ともに過ごしてきたご家族の気持ちにも寄り添っていきたい、そんな思いで準備を進めました。



小さい頃の姿に歓喜☆

ご協力下さったご家族も古いアルバムを見返し、何枚も写真を選定し（選びきれない……と冊子で提出された方も……）、改めて当時と現在を比較して振り返るなど、ご家族にとってもよい機会になったようでした。

さて、お楽しみ会当日、画面に子どもの頃の写真が映し出されると、ご利用者も職員も「あの面影、もしかしたら……いや、まさか……」とザワザワ。普段ともに作業している仲間の〝あの頃〟に思いを馳せ、それぞれの時の流れに触れる大変貴重な時間となりました。

笑門来福

新たな仲間と新たな計画を

皆さま方には日頃より温かい励ましとご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

広報紙「ぷれっそ」は、社会福祉法人武蔵野の活動を地域住民の皆さまにお伝えすること、いただいたご意見や感想を活動に反映することで、法人への理解がより深まるとともに、私どもの実践のレベルアップにつながることを期待して発行しています。

第六期中期基本計画

制度変更や社会状況を踏まえ、社会福祉法人としての事業運営の方向性を、3年ごとに中期基本計画として策定しています。

令和6年度は第六期中期基本計画の初年度であり、前計画の実績を踏まえて課題を検証し、全体説明会や意見募集など多くの職員が参画してまとめあげた事業を進めていく重要な年になります。

計画の概要は特集面をご参照いただければと存じますが、重点項目に掲げた事業の実施に努めるとともに、経営課題の解決に向けて着実に取り組みを進めてまいります。

法人運営

武蔵野市も「誰もが安心して暮らし続けられる魅力と活力があふれるまち」「武蔵野市ならではの地域共生社会の実現」を目指すべき姿・基本理念とする、第六期長期計画・調整計画や第4期健康福祉総合計画など、重要な計画を策定しています。

私どもは、武蔵野市の計画と整合性を図りながら連携協力し、地域福祉の向上に取り組んでまいります。

また、事業運営に必要な資産である施設や環境を適切に管理するファシリティマネジメントの視点をもちながら、財務面の見通しをしっかり把握し、持続可能な法人運営を目指してまいります。

なお、3月から4月にかけて、福祉経験者や新卒者など10人の新たな職員が加わりましたので、引き続きご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

（理事長　渡邊　昭浩）

社会福祉法人
武蔵野 案内図

各施設は、
- 児童サービス
- 障害者サービス
- 高齢者サービス

に色・書体分けしています。また、Ⓐ～Ⓒは本誌に記事を掲載している施設です。

編集後記

表紙の写真は、昨年度末に武蔵野市役所前のスペースで開催された、活動で生み出された作品の販売会の様子です。"作ったものを自分たちで売り、人の手に渡っていくことを実感する"という機会を今年度もたくさん作り、作品を名刺代わりに地域に出ていこうと思っています。（は）

ぷれっそ
2024 第63号
社会福祉法人武蔵野 広報紙ぷれっそ第63号 【発行日】令和6年5月1日 【発行者】渡邊昭浩 〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町4-11-16 TEL 0422-54-7666 FAX 0422-54-7599
https://fuku-musashino.or.jp/ 【編集】（福）武蔵野 広報委員会 ぷれっそ編集部 【編集協力・制作】七七舎 渡辺のぞみ
※Presso（ぷれっそ）はイタリア語で「すぐそばに」という意味です。表紙の題字はご利用者が書いたものです ※音訳デイジー版をご希望の方は事務局（TEL 0422-54-7666）まで